## 年間授業計画様式

## 東京都立町田工業高等学校 令和4年度 教科 理科 科目 化学基礎 年間授業計画

教 科: 理 科 目: 化学基礎 単位数: 2単位

対象学年組: 第3学年1組~5組)

教科担当者: (1組:大窪 ) (2組:大窪 ) (3組:大窪 ) (4組:大窪 ) (5組:大窪 )

使用教科書: ( 「改訂新編化学基礎」東京書籍 ) 使用教材 : ( 「インプレス化学基礎」浜島書店

	指導内容	科目化学基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
	物質の構成	ことから身の回りの物質についてもそれをあてはめ考察できる。		6
4 月				

	指導内容	科目化学基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
5月	原子の構造と元素の周期表	・元素の確認方法や同素体の性質確認について理解・習得しており、その具体的なあてはめ方について基本的な知識を身につけている。 ・元素の確認方法や同素体の性質確認などの実験方法と操作を身につけ、その技能を習得し的確に表現できる	<ul><li>・原理・法則を理解する。</li><li>・公式を利用して計算ができる。</li><li>・実験によって法則の確認や、原理に基づいて値を求めることができる。</li></ul>	6
	中間考査			1
	物質の構成粒子	・原子の電子配置および周期表の構成について,最外殻電子,価電子等の概念を用いてその意味について的確に表現できる。 ・物質の構成粒子としての原子の構造について理解・習得し、具体的な原子の表現についても.規則性があること等の基本的な知識を身につけている	<ul><li>・原理・法則を理解する。</li><li>・公式を利用して計算ができる。</li></ul>	6

指導内容	科目化学基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
	・原子の電子配置について基本的な概念を、さらには元素の性質に関わって周期律の考え方を理解・習得し、周期表との具体的な関連について基本的な知識を身につけている。	・実験によって法則の確認 や、原理に基づいて値を求め ることができる。	
G ====================================			

	指導内容	科目化学基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
	期末考査			1
	物質と化学結合	・イオンの生成、イオン結合の形成等についてその仕組みを理解・習得し、イオン化エネルギーやイオン結晶等の概念について基本的な知識を身につけている。	・原理・法則を理解する。 ・公式を利用して計算ができ	6
		・共有電子対,配位結合,電気陰性度等の考え方を理解・習得し,結合の極性や構造式について基本的な知識を身につけている。	る。・実験によって法則の確認	
7月		・化学結合の多様性について理解・習得し,化学結合と結晶の性質との関連について 基本的な知識を身につけている。		
		・化学結合についての概念を基に、その多様性と物質の性質について考察でき・結晶の性質について説明できるとともに、結合と結晶の性質の関係を的確に表現できる。		
		・自由電子と金属結合,金属の性質の関係について基本的な知識を身につけている。		
	夏季休業			

	指導内容	科目化学基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
8月	夏季休業			

	指導内容	科目化学基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
9月	物質と化学結合	・イオンの生成、イオン結合の形成等についてその仕組みを理解・習得し、イオン化エネルギーやイオン結晶等の概念について基本的な知識を身につけている。 ・共有電子対、配位結合、電気陰性度等の考え方を理解・習得し、結合の極性や構造式について基本的な知識を身につけている。 ・化学結合の多様性について理解・習得し、化学結合と結晶の性質との関連について基本的な知識を身につけている。 ・化学結合についての概念を基に、その多様性と物質の性質について考察でき・結晶の性質について説明できるとともに、結合と結晶の性質の関係を的確に表現できる。 ・自由電子と金属結合、金属の性質の関係について基本的な知識を身につけている。	<ul><li>・公式を利用して計算ができる。</li><li>・実験によって法則の確認や、原理に基づいて値を求めることができる。</li></ul>	6
	原子量・分子量・式量と物質量	・原子量, 分子量, 式量およびアボガドロ数と物質量との関係について正確に理解・習得し, モル質量, 1molの気体の体積, 溶液の濃度等について正しく表現できる基本的な知識を身につけている。	・原理・法則を理解する。 ・公式を利用して計算ができる。	6

	指導内容	科目化学基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
			・実験によって法則の確認や、原理に基づいて値を求めることができる。	
10月	中間考査			1
	原子量・分子量・式量と物質量	・原子量、分子量、式量およびアボガドロ数と物質量との関係について正確に理解・習得し、モル質量、1molの気体の体積、溶液の濃度等について正しく表現できる基本的な知識を身につけている。	<ul><li>・原理・法則を理解する。</li><li>・公式を利用して計算ができる。</li><li>・実験によって法則の確認や、原理に基づいて値を求めることができる。</li></ul>	6

	指導内容	科目化学基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1月	物質量と化学反応式	・化学反応式の書き方について理解・習得し、その係数と物質量、気体の体積等の関係について基本的な知識を身につけている。 ・12Cを基準とする相対質量の考え方およびアボガドロ数と物質量の概念を基に、原子量、分子量、式量、同位体の存在比の扱いおよびモル質量、1molの気体の体積、溶液の濃度等について考察できる。	<ul><li>・原理・法則を理解する。</li><li>・公式を利用して計算ができ</li></ul>	6

	指導内容	科目化学基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
12 月	期末考査酸と塩基	・酸と塩基の定義や性質を基に、具体的な酸や塩基の価数や強弱についても考察できる。 ・水素イオン濃度とpHの関係を基に、pHの具体的な求め方、身近な物質のpH値さらには酸性・塩基性の基準についても考察できる。	・公式を利用して計算ができ	6
	冬季休業			

	指導内容	科目化学基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
	冬季休業			
1月	酸と塩基	・中和反応の定義を基に、具体的な反応や中和滴定の具体的方法やに関して考察できる。 ・酸と塩基の複数の定義や分類について理解・習得し、具体的な酸や塩基の価数や強弱について基本的な知識を身につけている。 ・水素イオン濃度とpHの関係について理解・習得し、酸性・塩基性の定義や身の回りの具体的な物質のpH測定等の考察を通じて基本的な知識を身につけている。 ・中和反応の量的関係について理解・習得し、中和滴定の実験を通じて具体的な器具や指示薬についての基本的な知識を身につけている。	・原理・法則を理解する。 ・公式を利用して計算ができる。 ・実験によって法則の確認や、原理に基づいて値を求めることができる。	6
	期末考査			1

指導内容	科目化学基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
		・公式を利用して計算ができ	6

	指導内容	科目化学基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
3 F		科目化字基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	時数